

学ぶことは生きること

岡山県 岡山県立岡山操山中学校 2年

小西 珠生（こにし たまき）

目を閉じて想像して欲しい。あなたは日本人で大人だと仮定しよう。家から一歩外に出ると、あなたは不安で落ち着かず、自信がなくなる。街を歩くと、目に入る看板や案内の文字が分からず、あれは何を意味しているのだろうと考える。そしてそんなことも分からない自分はクズだと思う。バスに乗っても、「運賃」という漢字や行先を告げる文字が読めず、乗るのが怖くなる。自分はいつも不確かで分からないものに囲まれた世界で生きていると感じる。あなたは、なぜこんなに困っているのだろうか。

私は今年の夏休みに、岡山自主夜間中学へ学習ボランティアとして通った。先ほどの例は実際にここに通われている A さんの話だ。A さんは幼い頃に大病を患い、小学三年生から不登校となった。中学校もほとんど通わないまま卒業証書だけを受け取った「形式卒業者」である。きつい肉体労働の仕事に就くが病気のために辞めてしまい、その後も職を転々とした。字が読めない、書けない、計算ができないために仕事が選べず、恥ずかしい思いを数え切れないほどしてきたという。

夜間中学校とは、A さんのように不登校など様々な事情で十分な教育が受けられないまま中学校を卒業した人、現在不登校の中学生、戦後の混乱期の中で義務教育を修了できなかった人、外国籍の人など多様な背景を持った人々に義務教育を受ける機会を保障するために作られた学校である。現在、全国に公立夜間中学校が八都府県で三十一校、ボランティア団体等が行う自主夜間中学校は十六都道府県で三十七校ある。私がボランティアに通った岡山自主夜間中学には、十代から八十代までの五か国の生徒が約四十人通っている。生徒はみんな私と同じ「中学生」ということだが、教室を見渡すと多様性に富み、世の中には本当に様々な中学生がいるものと驚いた。

ある日、私は自分の祖母よりも年上である B さんの分数の勉強を手伝った。ここでは基本的に先生と生徒が一对一で勉強する。B さんは、現役中学生の私がボランティアとして通っていることに驚き、なぜ自分が今になって夜間中学に通っているのか、義務教育を受けなかったために、今までどれほど苦勞して生きてきたのかを話してくださった。そして「珠生ちゃんのように若い時にこんな勉強ができていたら、今頃もっと幸せなのかねえ。」と呟かれた後、驚くべきことばを發した。

「今日習ったことを忘れたくないから、宿題を出してください。」

と言われたのだ。私は自分の耳を疑った。宿題は私の天敵である。私が通う中学校では、生徒の意志に関わらず、自動的に宿題が山のように出される。勉強が得意ではない私は、

「どうして勉強しなければいけないの？こんな勉強、何の役に立つの？」

と学ぶこと自体を否定し、宿題も嫌々していた。だから、Bさんに宿題が欲しいと頼まれたとき、私は自分が恥ずかしくなった。Bさんをはじめ、夜間中学に通う方たちの学びに対する情熱がまっすぐでとてもまぶしかった。そして多くの方は、この夜間中学へたどり着くまで「何のために学ぶのか」など考える余裕もないほど、ただ必死で生きてこられたことを思うと、自分がいかに恵まれていて甘えているのかを痛感した。

統計的には、日本の義務教育課程における就学率は約九十九パーセントだ。しかし、全国夜間中学校研究会の推計では、一度も学校に通ったことがない未就学者と小・中学校中退者を合わせると、全国で百数十万人の義務教育未修了者がいるという。その中には複雑な家庭環境を背景に、出生届を出していない無戸籍児、親の虐待、ひきこもりや不登校など、様々な社会の問題が原因で義務教育未修了者となった者もいる。私たちは日本国憲法や教育基本法等で、教育を受ける権利を保証されているはずである。しかし現実には夜間中学で出会った方たちのように十分な教育が受けられず、劣悪な状況に追いやられて生きている人たちがいることを私たちは忘れてはならないと思う。学びを求めている人たちに、もっと「教育の機会」を届けたい。

私が尊敬するマララ・ユスフザイさんの国連でのスピーチが私の背中を押してくれる。

「一人のこども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン。それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。教育を第一に。」

私は本当に小さなことしかできないが、これからも夜間中学の学習ボランティアの一員として、学びの場を守り、共に学んでいきたい。学ぶことは生きること。私はこの夏、岡山自主夜間中学の皆さんに、学ぶことの意味を教えていただいたと思う。